

## 東北ブロッククラブネットワークアクション 2019 開催報告

日 時： [1日目] 令和元年 11 月 23 日（土） 13：00 ～ 17：30  
[2日目] 令和元年 11 月 24 日（日） 9：00 ～ 12：30

会 場：TKP ガーデンシティ PREMIUM 仙台西口 ホール 8A

内 容：テーマ：「国際的スポーツイベントと地域スポーツ」

### [1日目]

1. 基調講演「国際的スポーツイベントが地域にもたらすもの」
2. 共通プログラム「総合型クラブ登録・認証制度の創設に向けた情報共有」
3. パネルディスカッション「もっと知ろう！登録・認証制度」

### [2日目]

1. テーマ講演「目指せ！地域のスポーツコミッション  
～国際的スポーツイベント合宿招致を契機として～」
2. ワークショップ「今が発想転換のチャンス！  
～クラブでできること／やりたいこと～」

参加者：138名

### 【概要】

本年度は、来年日本で開催される国際的スポーツイベントに合わせて、その国際的スポーツイベントによる地域社会への影響や、それを契機とした地域活性化を図る事例を知り、新しい発想・創造による総合型地域スポーツクラブの現状打開の方策や新しい可能性を探っていくことを目的とした基調講演、事例発表、ワークショップを実施しました。

また、再来年度から実施される総合型クラブの登録・認証制度の理解をより深めるために、共通プログラムの情報共有後、スポーツ庁、全国 SC、単位クラブのそれぞれの立場のパネリストによるパネルディスカッションを行いました。

東北ブロックのクラブが今回の研修会を契機に、多数の新しい発想を創出し、登録制度によるクラブの質の向上が図られることを期待するところです。

## 【内容】

[1 日目]

### 基調講演「国際的スポーツイベントが地域にもたらすもの」

講演者：荒牧 亜衣 氏（仙台大学講師）

今年度から再来年度まで日本各地で開催される国際的スポーツイベント。これらの国際的スポーツイベントが「地域にもたらすもの」（レガシー）は何か、つまり、これらのイベントを通じて、自分たちの暮らしている地域のスポーツについて再考するという観点で、基調講演をしていただきました。

まずは過去の事例として、1964 年東京オリンピックが何をもたらしたのか（レガシー）についての紹介がありました。1つは“東洋の魔女（全日本女子バレーボールチーム）”。もう1つは“聖火リレー”。“東洋の魔女”が金メダルを獲得することで「バレーボール人気」「女性（主婦）がスポーツをする機会の提供」「地域の連帯感形成や活性化」をもたらし、“聖火リレー”では、日本全国で約 16 万人（16 歳～20 歳）が関わり、若者たちがタスキをつなぐことで、地域に連帯感と誇りをもたらしたことの紹介がありました。この事例からもわかるように、国際的スポーツイベントは地域と強く結びつきレガシーを生み出していることから、来年度開催される国際的スポーツイベントにおいても、地域にも有形で計画的にレガシーを残していくことは大切なことだという認識を得ることができました。

また、地域に住むオリンピックや聖火ランナーと関わる教育的プログラムや国際交流を企画／実施することは、国際的スポーツイベントのレガシーと成り得る活動になるのではというヒントも頂きました。アンケート結果でも「時宜を得た内容で大変興味深く聞くことができた」との評価もあり、多くの活動のきっかけを得ることができた基調講演となりました。



### 共通プログラム「総合型クラブ登録・認証制度の創設に向けた情報共有」

第2期スポーツ基本計画で示されている総合型クラブの登録・認証等の制度整備について、2021年度からの制度施行に向けて、総合型クラブ育成に携わる関係者間における制度に関する情報共有を図り、制度の円滑な導入を目指すために、「総合型クラブ登録・認証制度の創設に向けた情報共有」をテーマに共通プログラムを実施しました。

今回は、日本スポーツ協会が総合型地域スポーツクラブ全国協議会（SC 全国ネットワーク）を基盤として策定した登録・認証制度の原案に基づき、実行委員長 高橋三郎（SC全国ネットワーク常任幹事）から制度創設の経緯・意義について、日本スポーツ協会事務局 加藤弘和（クラブ育成課課長）から制度の具体的な内容について説明を行った後、質疑応答を行いました。

質問としては“登録基準における年会費の考え方について”、“指導者資格について”、“制度の開始時期やメリットについて”、“スポーツ少年団との関係性について”、“県独自制度との兼ね合いについて”、様々な質問が出され、それぞれについて、SC全国ネットワーク代表常任幹事と日本スポーツ協会事務局から回答がありました。

## パネルディスカッション「もっと知ろう！登録・認証制度」

コーディネーター：浅沼 道成 氏（岩手大学教授）

パネリスト：久田 晴生 氏（スポーツ庁健康スポーツ課連携推進係係長）

伊端 隆康 氏（SC全国ネットワーク幹事長）

鹿内 葵 氏（青森県総合型クラブ連絡協議会会長/NPO 法人スポネット弘前理事長）

2021年度から制度施行開始予定の総合型クラブ登録・認証制度について、共通プログラムでの情報提供に続き、この制度をもっと深く理解したいという思いから、このパネルディスカッションを実施することになりました。パネルディスカッションでは、パネリスト1人1人から、それぞれの立場で、この制度に関する思い、意見を述べて頂きました。その後はコーディネーターの進行により、各パネリストに対して意見聴取、フロア参加者からの質疑応答を行いました。

各パネリストからは、「5年後、10年後の主役は地域で活動する皆さんになるだろう。手弁当で懸命に活動しているクラブも救える制度にして欲しいと国に要求している。今は生の声を各都道府県行政にヒアリングしている段階だが、全都道府県で統一した制度が必要と感じている。」「当初は常任幹事や各方面からも厳しい意見があった。今は条件（予算、人など）さえクリアできれば8～9割の委員から“やれるのでは”という流れになっている。クラブの質を向上して地域のためにならないと総合型クラブの存在価値が無い。」「行政も体協も総合型クラブの支援を重点事項として明確に打ち出して欲しい。1クラブだけでは地域に根付かないので、行政、体協、協議会、クラブとの連携が密でないといけないと感じている。少子化で、子供の「するスポーツ環境」がなくなる危機を感じている。地域のスポーツ環境の改革のために登録制度があると聞いたので、その意味でもこの制度を活かしたい。」との意見がありました。

1時間という短い時間でのプログラムではありましたが、コーディネーター、パネリスト、フロア参加者含めて、一定の理解を得られたように感じました。



[2日目]

### テーマ講演「目指せ！地域のスポーツコミッション」

講演者：国井 康士 氏（角田市教育委員会生涯学習課）

宮城県南部に位置する角田市（人口3万人弱）において、スポーツによる地域活性化を目指すスポーツコミッション設立の取組みについての紹介と、行政としての立場から、地域スポーツ振興の思いについて語って頂きました。

国井氏は、地域のネットワーク連携のための取組みが、来年度行われる国際的スポーツイベントのレガシーとして後世に繋がっていくこと、総合型クラブも地域との連携を大事にして活動をどう繋いでいくかを考えていくことが、東北のレガシーになっていくのではないかと熱く想いを語って頂きました。

行政の地域の将来を思う気持ちとその行動力に感動を覚える時間となりました。



### ワークショップ「今が発想転換のチャンス！」

講演者：弓田 恵里香 氏（仙台大学講師）

「今」というのは、まさに来年の国際的スポーツイベント開催を控えた「今」を指しており、国際的スポーツイベント自体も発想転換を次々と打ち出している昨今、地域で活動する総合型クラブも発想転換が必要かという気づきを持ち帰って頂きたいという思いから、このテーマのワークショップを行うことにしました。また、弓田ゼミの学生4名にもサポートに入って頂き、ワークショップの活性化に拍車をかけてもらいました。

このワークショップのポイントは、「日常にある“ヒント”探し」で、1つは、脱マンネリ化に向けて「本質を見直す」、もう1つは、人集めに向けて「動く瞬間に気付く」で、この2つのテーマに関して、グループワークで各人が意見を出し合う形で進めました。

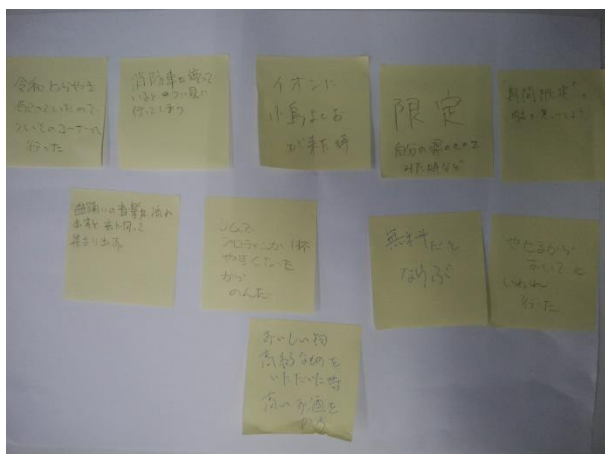
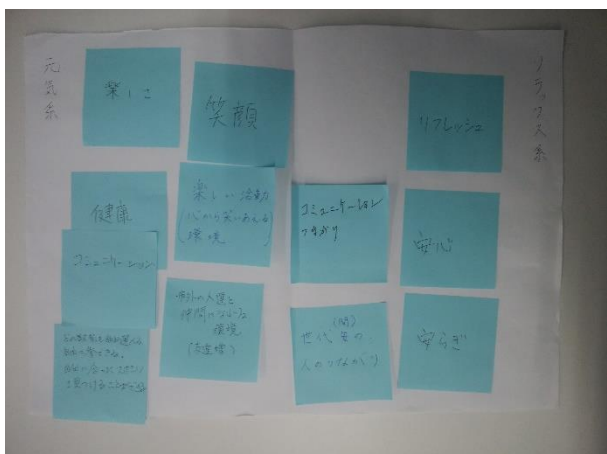
「本質を見直す」では、クラブの「これだけは譲れない」「これだけは外せない」を改めて見つめ直し、その本質以外を“加える／増やす／削る／減らす”ことで、脱マンネリ化を目指そうというものでした。そこで一番大切な基準は、“自分が楽しいかどうか！”であることだとアドバイスを頂きました。

「動く瞬間に気付く」では、「思わず動いてしまった瞬間」「動きたくなかった瞬間」は何だろうということを自分で思いつく限り挙げてみて、何故そうなったのかを振り返り、それが身近な条件だったり、環境だったり、日常にも「人が動く瞬間」のヒントはあることに気付かされました。

コーディネーターのわかり易い説明、ワークでの学生のサポートもあり、楽しく新たな気づきを発見できた貴重な時間となりました。







「これだけは譲れない」「これだけは外せない」

「思わず動いてしまった瞬間」「動きたくなった瞬間」

## 【まとめ】

今回の研修会では来年度開催される国際的スポーツイベントが地域にもたらすものは何か、そのもたらされたものを契機とした事例紹介やワークショップにより、クラブ活動／クラブ運営における新たな発見と気づきを、それぞれのクラブに持ち帰って、日常の活動に活かして頂きたいという思いでプログラムの準備（テーマ選定／講師選定）を行いました。アンケート結果を見ると、こちらの思いを受け止めて、自分たちの役立つ何かを持ち帰って頂けたのかなと感じました。

また、再来年開始予定の総合型クラブ登録・認証制度に関して、制度の理解を深めるためのパネルディスカッションを準備しました。クラブの存続／質の向上に関わる重要な制度であることの一定の認識理解を得られたのではないかと思います。

今回、出席されたクラブ関係者にとって、今回のネットワークアクションが新たな気づきの場であり、大いなる参考になっていることを切に願っております。

(東北ブロッククラブネットワークアクション 2019 実行委員長 高橋 三郎)

※本ネットワークアクションは、東京 2020 応援プログラム(スポーツ・健康)として実施しました。